

高松平和病院ニュース

〒760-8530 高松市栗林町1-4-1 TEL.087(833)8113(代表) HPアドレス：<http://www.t-heiwa.com/>
発行責任者：高松平和病院 院長 原田真吾 編集：広報委員会 発行年月日：2022年2月1日

2022年 新年ご挨拶

高松平和病院 病院長 原田真吾

明けましておめでとうございます。

昨年一年間を振り返ると、GoTo トラベルなどで全国に拡大したコロナの第3波がピークを迎えつつある中で新年が始まりました。高松においても1月に本格的なクラスターが老人ホームで起こり、医療逼迫の最初になりました。その中で入院できる—できないの命の選別が行われることとなりました。

同じ頃、世界で初めてイギリスでコロナワクチンが接種されはじめ、マスクや手洗いしかなかった防御を強くすることができました。

しかし、それ以降も春先に大阪を中心とした第4波、東京オリンピックの開催や夏休みの移動をきっかけとした第5波でもさらに感染の規模を大きくさせていき、当院でコロナウイルス感染と診断された患者さんも人工呼吸器につながないと同意してくれたら入院を受け入れます、とのことで医療逼迫が身近に迫ることとなりました。

私たち医療従事者はコロナワクチンを運び、溶かし、注射しました。地域住民の皆さんも予約が始まると電話をかけ続け、時には絶望しながらも、なんとか注射してくれる医療機関を探し出し、アナフィラキシーや脳梗塞、発熱・倦怠感の副反応のリスクに勇気を出して立ち向かいました。年末の感染が下火になっていたのもその頑張りがあったことで

した。

今後も気候危機とグローバル化、世界の富裕層と貧困層の格差拡大がすすむ時代にあっては、新興感染症が周期的に発生することが想定されます。人口減と超高齢社会、貧困・格差、孤立がすすむなかで、私たちは誰も置き去りにしない社会、いのち輝く社会の実現をめざしています。

今年の干支「壬寅(みずのえとら)」は、厳しい冬を越えて、芽吹き始め、新しい成長の礎という意味が含まれるそうです。今も第6波、オミクロン株が猛威をふるっていますが、助走が長い分の大ジャンプに変える一年となるように、職員一同力を合わせて地域医療に貢献できるようがんばります。

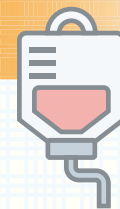
皆様のご支援、ご協力のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。



高松平和病院
理念

1. 患者の権利を守り常に信頼される医療を提供します。
2. 健康づくり、明るく安心して暮らせるまちづくりに貢献します。
3. 平和と医療、福祉を守ります。

香川民医連



第28回看護介護活動研究交流集会在行われました。

毎年恒例の法人内の集会では77名が集い、11演題の発表と看護職員への医師からの期待を含めた動画の視聴を行いました。発表の内容は退院支援や在宅看取り、デイケアでの脱水予防の指導、認知症ケア、コロナ禍でのケアマネジャーの課題など多くの学

びを深め交流することができました。

日々の業務はますます多忙を極めていますが、そんなときだからこそお互いの看護介護活動を知り、連携を深め合い、看護介護っていいなと思える機会にしていきたいと思いました。



新卒看護師さん、病棟でがんばってます!!

4月に緊張しながら元気に入職した4名、早一年が過ぎようとしています。研修に頑張っており、大きく成長した様子をご紹介します。

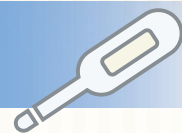
3、4病棟2名ずつ配属され研修を開始しました。入職当初から仲良く切磋琢磨しながら頑張っています。病棟業務は覚えることが多いですが、事前準備も入念に行い1日の業務の組み立てもしっかりできるようになりました。患者様からの温かいお声かけを励みに、今では受け持ち看護師として自立し勤務を行っています。また、2020年8月より導入したパートナーシップ・ナーシング・システム®では、

パートナーである先輩ナースと連携し合い、先輩の技術も学びながらスキルアップに日々努力をしています。そして、いつも患者様へ笑顔を忘れず、対話を通して患者様の思いを受けとめようとする姿に病棟スタッフも気持ちを新たにしています。

新卒看護師さんが元気な挨拶と声かけ、周囲への気遣いもできるようになり、明るい病棟をつくってくれていてうれしく思います。コロナ禍で大変な状況ですが、これからも力を合わせて前進していきたいと思っています。



発熱外来の取り組みを通して



高松平和病院では、県の帰国者接触者外来の登録を行っています。

「検査をしてくれる病院がない」「かかりつけから熱があるため診察を断られた」「帰国者・接触者センターに電話したら、平和病院にかけるように言われた」など様々な理由で問い合わせがありますが、できる限り発熱者の受療権を守るため、2020年5月に開設しました。

問診に沿って聞き取りを行い、症状や接触歴・ワクチン歴などから緊急度や検査の必要性や内容をトリアージしています。個人医院や保健所からの紹

介も多く、スマートジーン(PCR)を3台導入して2020年3月～2021年9月までで、総数3,742件の検査を行いました。結果、陽性319人で陽性率は8.5%になりました。第5波の中では、朝から夕までずっと電話対応、状態の悪い陽性の患者さんを家に帰せず、入院先を保健所と半日かけて探すなど日々対応に追われていました。2021年10月からは落ち着きを取り戻していましたが、2022年11月より第6波が到来し、その対応に追われています。その中でも院内感染を起こさないよう注意しつつ、今日も奮闘中です。



職場紹介

医事課



医事課は、主に受付、会計を担当している部署です。また病院の収益に直接つながる保険請求業務も医事課の重要な業務です。受付窓口では、病気等による不安を抱えた患者さまに少しでも安心していただけるよう、笑顔で丁寧な対応をこころがけています。会計業務においては患者さまの待ち時間の短縮、正確な料金の計算に努めております。病院の顔として、また病院の経営を支える縁の下の力持ちとして、これからも業務に励んでいきたいと思っております。

ちなみに右記の写真は、2021年10月より医事課受付に猫のぬいぐるみ「みーさま」を設置しました。皆様の癒しになれば幸いです。



80列CT装置およびDEXA(骨密度測定装置)を導入



搬入の様子

当院では新しく80列CT装置およびDEXA(デキサー)装置を導入致しました。

CTは前機器よりも検出器が5倍になり一度に照射する放射線の面積が大きくなることでこれまで以上に撮影時間や被ばく量の減少が期待でき、被ばくを気にされる患者様も安心して受けて頂けるようになりました。

心臓の冠動脈造影などの特殊造影検査でも、息止め時間を短縮することができるようになり患者様の苦痛も軽減できます。

またAI機能を搭載しており、特に人工関節などの金属類を撮影した時に生じる画像の不利益を払しょくできる画像を生成することが可能になりました。

併設しているワークステーションも高性能になり、

より血管認識能力や複数画像間の演算処理機能が向上し画像提供がしやすくなりました。



特に画像提供にスピードが重視される腹部血管造影検査においても同様に期待できます。

また患者様で受傷1週間程度の骨折をされた方で
①MRI適用ではあるもののペースメーカーやMRI禁忌とされるものが体内にある場合

②MRIで長時間同じ体勢でいることができない患者様で骨折の鑑別の対象になる場合においても骨折箇所への出血部位の抽出を行うことができる機能も有しております。

診療に十分な画像を提供できる装置のため我々放射線科一同一日でも早く使いこなせるように日々努力して参る所存です。

DEXA装置は患者様の腰椎や大腿骨を撮影して任意指定領域を解析し骨密度を計測する装置です。

これまでCTにて骨密度計測を行っておりましたが、計測者間で測定部位に対しわずかながらにも差があるため精密さに少々欠けておりました。

今回機器を導入するにあたり測定部位の指定を機器が行うことにより計測の固定化、つまり精度の高い骨密度測定を行うことが可能になり、より正確な結果を出せると期待できます。

DEXAに関しては2月中の運用開始まで現在調整中ですので今しばらくお待ちいただけますと幸いです。
診療放射線技師 三好彩夏



80列CT装置



DEXA装置